



今月の記事

認知症の学び

先月からの愛の園

支える人々Part II

リレーエッセイ

11～12月の予定



認知症800万人時代～取り組み様々に

認知症の患者は世界で3,700万人、日本では462万人、将来は800万人になると予測され、その対応は当事者や医療・介護関係者だけでなく社会全体の大きな課題です。

初期の認知症の方々に對して、その時期に患者自身がどこに相談しどう暮らしていくか、仲間との出会いや気分転換をどう図るかなど、精神的サポートをするスコットランドの「リンクワーカー」の取り組みを紹介したテレビ番組が放映されていました。日本では昨年から複数の専門職によって、認知症が疑われる人や認知症の人、その家族を訪問して初期の支援を包括的にまた集中的に行って自立生活をサポートする「認知症初期集中支援チーム」の取り組みが開始され拡充が期待されています。

一方、認知症当事者団体として、認知症の人と社会のために認知症の人自身が活動していこうとする「日本認知症ワーキンググループ」が設立されたとのニュースもありました。「認知症の人と家族の会」も長く続いた取り組みを続けており、「認知症の人基本法」を制定して国としての取り組みを強化していこうと

いう声も上がっています。実際に認知症の方々に接する医療・介護者に対しては「バリエーション」や「ユマニチュード」など認知症の方との関わり方が研究・実践されています。

愛の園では入居者の7割が認知症であり、毎年認知症と周辺の症状について、また認知症ケアについて職員研修を行っています。今年の研修では「職員としてどんな仕事をしたいのか」を手掛かりとして学び、症状や行動への対処療法ではなく、一人一人の気持ちに寄り添い、その人らしさを尊重して愛の園での生活を支える大切さを確認しました。

県が行う認知症実践者研修に参加した職員からは「障害部位による症状の違い、症状による援助の仕方を学び今後に生かしたい。」(谷口 政人)、「生活歴から学び、個人として理解し関わることで意思表示や活気が増しよい変化があると実感した。小さな意思表示を大切に身近な代弁者となってサポートしたい。」(濱口 友喜)との学びが報告されました。

専門職としてお一人お一人の声を聞くことを大切にケアを目指し励んでまいります。



愛の園で逝去された方々を記念して礼拝が捧げられ、懇談会で豊かなひと時を過ごしました 11/3

先月からの愛の園 あんなこと、こんなこと



白浜町出身の MさんとIさん。お祭りの準備を見学に行き、近所の皆さんと記念撮影を行いました。 11/16



上富田町市ノ瀬にあるコスモス畑を見に行きました。とても綺麗に咲いていたので感動しました。 10/14



上富田健康福祉と文化の祭りを見学しました。作品展にはちぎり絵と手芸サークルメンバーのパッチワークのバッグを出展しました。作品展見学の後は出店にて綿菓子を食べました。皆さん「美味しいわ!」と笑顔でご満悦でした。 11/2





支える人々 Part II (4) 手芸サークル 笠松登美子さん

愛の園の職員である知人から、園でボランティア活動をしてみないかとの声が掛かり、手芸サークルで長年参加させていただいています。手芸サークルは、私達ボランティアと園の職員の方と一緒にしています。

パッチワークは小さな布を繋ぎ合せて、じっくりと何ヶ月も時間を掛けて作品を仕上げます。本当に根気の必要な作業です。まち針を7本、縫い針1本を入居者お一人ずつ用意して始めます。まち針をうって、「ここからここまでを縫ってください」と声を掛けながら、少しずつですが針を進めて縫っていきます。

作業中は色々な話が出ます。話の話題の内容は経験談など様々です。歌を歌われる方もおり、和やかな雰囲気時間があっという間に過ぎてしまいます。

体調の良い時もあれば、針が進まない時、顔だけ見せに来ましたと言って下さる方

など様々ですが、毎年11月に上富田町の文化展に作品を出展させていただいています。

作品の評価も上々です。出来上がった作品も素晴らしいですが、入居者の皆さんの笑顔が最高です。

私もこれから年を重ねて行きますが、現在91歳の父を介護中ですので、色々学ぶことが多くあります。これからもこのサークル活動を通して輪を広げていければと思います。



入居者の皆さんが作成した手提げ袋を上富田町健康福祉と文化の祭りに出品して展示されました。

介護職員

森 美子

リレーエッセイ(28) 「ハナとの出会い」

私の愛猫、名前は「ハナ」。とてもおてんばで甘えん坊の女の子です。

ハナとの出会いは6年前の夏、突然知らない小学生の女の子が真っ赤な顔で汗だくになって家を尋ねてきました。「子猫いりませんか？」と。

女の子の小さな自転車のかごの中からはかわいい子猫が顔を覗かせていました。女の子の家の前に捨てられていて家では飼うことができないので、女の子が一人で

飼ってくれる人を探して一軒一軒周っていたそうです。女の子の素直で優しい気持ちと行動に感動し、子猫を引き取ることにしました。「猫ちゃんよかったね。」と女の子は泣いてしまいました。

その数日後、女の子からの手紙がポストに入っていました。『こんにちわ。お元気ですか？子猫をもらって来てありがとうございます。今日は私の自己紹介とお礼をさせていただきます。今日は私の自己紹介とお礼をさせていただきます。』と始まり、家族や学校のことなど書いたかわいい手紙でした。私と女の子は手紙のやりとりをするようになり、家に遊びに来てくれるようにもなりました。あの時の温かい出来事に癒され、女の子とハナに出会えた素敵な出会いに感謝し、幸せに思います。

次回は10ユニットの澤井慶子さんにバトンタッチします。



「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

Email ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>

11～12月の愛の園

- 11(火) マリア会
- 13(木) やまびこ会
- 16(日) 日曜礼拝
- 18(火) ひまわり会
- 20(木) やまびこ会
- 21(金) 社協ボランティア来園
- 23(日) 日曜礼拝
- 25(火) マリア会
- 26(水) 県知事選不在者投票
歯科診療
- 27(木) やまびこ会
- 30(日) 日曜礼拝

- 4(木) やまびこ会
- 7(日) 日曜礼拝
- 9(火) マリア会

編集者から

今年も今月から肺炎球菌とインフルエンザの予防接種を、希望される入居者全員に行っています。もちろん愛の園の職員も全員インフルエンザの予防接種を行います。しかし、感染症の予防に一番重要なのは手洗いという標準的な予防策を確実に行うことです。ご家族や施設を訪問される方々にも、ご面会の際に玄関横にある洗面台にて手洗いとうがいをしっかりと行っていただき、必要に応じてマスクを着用くださいますようお願いいたします。

11月26日に和歌山県知事選挙の不在者投票を1階地域交流ホールにて行いますのでお知らせいたします。(C)